

## 資料 1

西東京市公民館運営審議会  
令和2年度第7回定例会議

## 令和2年度 公民館主催事業報告書

公運審提出日 令和2年12月23日

|   | 実施館 | 事業名                                     | 事業目的   | 期間・回数         | 参加者数   | 学習成果  | 主な講師等                            |
|---|-----|---|--|---------------|--------|---|----------------------------------|
| 1 | 芝久保 | 親子お楽しみ企画<br>コマ撮りアニメーション上映とパ<br>ラパラまんが作り | アニメーション映画<br>の上映会をきっかけ<br>に、地域の親子に芝<br>久保公民館を知って<br>もらうことを目的と<br>する。あわせて家庭<br>でできるモノづくり<br>の楽しさを体験する<br>機会を提供する。 | 11月28日<br>土曜日 | 12組26人 | アニメーション制作の現<br>場の様子を聞き、実物に<br>触れて理解を深めなが<br>ら、作品の上映とパラパ<br>ラまんが作りを親子で楽<br>しむことができた。 | 中村奈央（アニメー<br>ター、株式会社エクラ<br>アニマル） |
| 2 | 芝久保 | 地域で創る教育ネットワーク講座<br>地域が育てる子どものチカラ        | 地域と学校をめぐる<br>具体的な事例から社<br>会教育の役割につい<br>て考え、地域の子ど<br>もと関わる活動に生<br>かす。   | 12月5日<br>土曜日  | 12人    | 多様な事例分析から学校<br>と地域を取り巻く状況<br>を理解し、学校支援活動<br>の課題を共有することが<br>できた。                     | 廣田 健（都留文科大学<br>教授）               |

|   |       |   |  |                                   |       |   |   |
|---|-------|---|--|-----------------------------------|-------|---|---|
| 3 | 谷戸    | 地域防災講座<br>緊急時・災害時に備えて                             | 緊急時・災害時における防災知識を習得し、自分の住む地域で起こりうる災害を想定して対応を考えておく。さらに、身近にある物を利用して災害時に必要な物を作成し、自分でできる防災対策を平日頃から意識する。 | 10月16日・23日<br>11月6日<br>金曜日<br>全3回 | 延べ30人 | 具体的な感染予防対策と防災に関する知識を得、より防災意識を深められた。<br>消火器、AEDの使い方を学び、災害時・緊急時に冷静に備えることを確認できた。<br>災害時に汎用するグッズを身の回りにある物で作成し、活用できることを確認できた。  | 西東京消防署員<br>小野修平（ジョージ防災研究所代表）                        |
| 4 | ひばりが丘 | 上映会<br>長編動画 毎日がアルツハイマー<br>2 関口監督、イギリスに行く編         | アルツハイマー型認知症の診断を受けた母親の介護の日々を記録したドキュメンタリー映画の上映会を実施する。映像を通して、認知症への理解を深める機会とする。                        | 10月15日<br>木曜日<br>午前・午後の2回上映       | 延べ39人 | コロナの影響で上映会への参加者が少なくなることへの危惧したが、むしろコロナの影響で自宅に引き籠る時間が長くなったことによる体力の衰えから、認知症への関心が高まり、申込が多くあった。映像を通して、認知症への基本的な理解の入口に立つことができた。 | —   |
| 5 | ひばりが丘 | 高齢者の課題を考える講座<br>コロナに負けない健康づくり<br>—ラジオ体操で心も身体もスッキリ | 新型コロナウイルスの感染を予防しながら、誰もが在宅でも続けられる健康体操を学ぶ。今回は、感染予防のため屋外で実施する。  | 10月21日・28日<br>水曜日<br>全2回          | 延べ35人 | 「ラジオ体操第1と第2」、「みんなの体操」、「西東京市しゃきしゃき体操」の正しく美しい動きを学ぶことにより運動の効果を上げることができた。   | 岩本成子（いこいの森体操会所属全国ラジオ体操連盟認定指導士<br>※その他、体操会からボランティア協力 |

|   |       |                                 |   |  |       |   |   |
|---|-------|---------------------------------|---|--|-------|---|---|
| 6 | ひばりが丘 | 親子で楽しいベビーヨガ                     | 新型コロナウイルスの流行で外出がままならない乳幼児を持つ親子が共にヨガやストレッチを楽しむ機会とする。 | ①11月17日<br>②11月24日<br>火曜日                              | 延べ44人 | 子どものお腹や顔などに触れながら行うストレッチやヨガを学ぶことで、親子が共に楽しみ絆を深めることができた。また、公民館で活動している親子サークルの活動内容やイベントの紹介を行うことで、地域で他の親子と繋がれる場の情報を提供できた。 | 中島千草(一般社団法人日本マタニティフィットネス協会認定「ママヨガ」「ベビー美クス&ヨガ」インストラクター)  |
| 7 | 保谷駅前  | 現代的課題を考える講座<br>ゆっくりと未来に向かおうパート2 | 不登校の子どもの子育てに悩む親同士が「つながる」ことの意味を考える。                  | 10月11日から<br>11月1日<br>日曜日<br>全5回<br>※第5回(11月1日午後)は進路相談会 | 延べ99人 | 子育ての悩みを家庭だけで抱え込まないで、同じ悩みを持つ親同士つながることで、気持ちや和らぎ、子どもたちに対する接し方を考え合うことが出来た。  | 長谷川俊雄(白梅学園大学教授)<br>高島美希(NPO法人まちかど保健室)<br>中山裕子(IPPOふとうこうを考える会代表)<br>田崎吉則(つくしの会代表)<br>守矢俊一(聖進学院学院長)<br>進路相談:都立定時制高校、通信制高校サポート校の教諭 |

|   |      |   |   |  |              |  |   |
|---|------|---|---|--|--------------|--|---|
| 8 | 保谷駅前 | <p>環境講座<br/>～知っているようで知らない植物を探ってみよう～</p> | <p>市内の限られた緑を保存するために、ボランティア活動をしている方々と共に学ぶことで、緑にかかわる活動に参加し緑豊かなまちづくりを考える。<br/>また、専門家の方から学ぶことで、活動の幅が広がり、より一層充実したものになるような学習の機会とする。</p> | <p>10月29日から<br/>11月26日<br/>木曜日<br/>全4回</p> | <p>延べ84人</p> | <p>市内で緑に関する活動をしている方から話を聞くことで、緑を残すことの大切さを改めて考えることができた。<br/>家庭やサークル活動で菜園・樹木などを育てる際に必要な土壌についての基礎を学ぶことができた。<br/>大気汚染が植物に与える影響について西東京市内の現状を知り、今後何をすべきか等の意見交換ができた。</p> | <p>高橋いく（高橋家屋敷林保存会、野草に親しむ会会長）<br/>野草に親しむ会メンバー<br/>松本 聡（一般財団法人日本土壌協会会長、東京大学名誉教授、農学博士）<br/>伊豆田 猛（国立大学法人東京農工大学 農学部環境資源科学科教授、農学博士）</p> |
| 9 | 保谷駅前 | <p>人権講座<br/>子どもの権利を考える</p>              | <p>「子どもの権利が守られるまち西東京市」にするために自身で何が出来るのかを参加者同士、具体的に考え合う。</p>  | <p>11月8日から<br/>11月29日<br/>日曜日<br/>全4回</p>  | <p>延べ79人</p> | <p>国連「子どもの権利条約」や「西東京市子ども条例」について詳しく学ぶことができた。また、それを活かして行くために自分たちに出来ることは何かを考え合うことができた。<br/>※番外として、映画「ゆーやけ子どもクラブ」を上映</p>   | <p>伊藤和子（弁護士・ミモザの森弁護士事務所所属）<br/>野村武司（東京経済大学教授・西東京市子どもの権利擁護委員）<br/>村岡真治（小平市ゆうやけ子どもクラブ代表）<br/>関本保孝（元夜間中学教諭）</p>                      |

|    |      |  |  |               |     |   |                                |
|----|------|--|--|---------------|-----|---|--------------------------------|
| 10 | 保谷駅前 | 多文化カフェ<br>難民とともに生きる ロヒンギヤ<br>の女性のお話から考える | 外国人住民の数が<br>年々増え続けている<br>一方、地域で外国人<br>と触れ合う機会は少<br>ない。公民館事業に<br>参加しにくい外国人<br>を主体とし、地域の<br>外国人との交流会を<br>実施する。 | 11月28日<br>土曜日 | 19人 | ロヒンギヤ難民として市<br>内に在住する講師から、<br>難民の現状について話を<br>聞いた。安心して生活す<br>る権利、教育を受ける権<br>利を守ることの重要性に<br>ついて一人ひとり自覚し<br>た。 | カディザ ベゴム（ロ<br>ヒンギヤ難民、市内在<br>住） |
|----|------|--|--|---------------|-----|---|--------------------------------|